

サイレージ用とうもろこしの推奨品種の編入・廃止

(畜試 草地部)

1. 背景とねらい

サイレージ用とうもろこしの品種数は年々増加している。特に、輸入品種においてはより能力の高い品種への切り替えが早くなり、品種の流通上の寿命も短くなってきている。そこで、最近の栽培試験等から本県に適すると認められる3品種を推奨品種に編入し、栽培面積が少なく種子流通が行われなくなる4品種を廃止した。

2. 技術の内容

1) 編入する品種の来歴及び品種特性

市 販 ・ 流 通 名 (系 統 名)	ロイヤルデント TX 330 (TX 330)	スノデント G 4513 (G 4513)	クマイデント 8388 (Garst 8388)	
来 歴	アメリカ イリノイアンデーション社	アメリカ ファンクシト社	アメリカ ガースト社	
粒 質	デント×デント	デント×デント	デント×デント	
試 験 年 次	昭61～63	昭62～63	昭61～63	
播種～発芽まで日数	12	12	12	
同上単純積算温度 (°C)	164.5	161.1	165.1	
同上有効積算温度 (°C)	44.8	43.2	45.6	
播種～絹糸抽出期まで日数	82	83	82	
同上単純積算温度 (°C)	1495.8	1518.6	1505.8	
同上有効積算温度 (°C)	684.3	696.5	687.7	
播種～黄熟期まで日数	134	136	135	
同上単純積算温度 (°C)	2528.6	2546.9	2546.2	
同上有効積算温度 (°C)	1190.5	1189.8	1194.8	
稈 長 (cm)	260	258	259	
着 雌 穂 高 (cm)	139	128	127	
生 草 収 量 (Kg/10a)	8780	7140	7433	
乾 物 収 量	全 重 (Kg/10a)	2178.7	2172.0	2212.0
	雌 穂 重 (Kg/10a)	1061.0	1172.0	1170.0
	生産速度 (Kg/10a、日)	1.63	1.60	1.63
T D N 収 量 (Kg/10a)	1557.7	1578.0	1601.0	
適正栽植本数 (本/10a)	6500	6000～6500	6000～6500	

2) 廃止する品種とその理由

区分	早晩性	品種・系統名	廃止の理由
奨励	晩生	交1号 (長交227号)	種子流通がすでに途絶えているため。
推奨	早生 中生 晩生	ゴールドデント101 (XL321) マン (MTC4) ロイヤルデント120 (TX120)	需要の減少により種子の供給が中止され、より能力の高い品種に切り替えるため。

3. 選定の理由

- 1) とうもろこしの総合評価法によると、ロイヤルデントTX330、クミアイデント8388は3年間、G4513は2年間連続してAランクの成績であった。
- 2) ロイヤルデントTX330は中生の推奨品種の平均値と比較すると、乾物収量で105%、乾物生産速度で106%、TDN収量で101%の成績であった。
- 3) G4513、クミアイデント8388は晩生の推奨品種と比べ、乾物収量で97~99%、乾物生産速度で95~97%、TDN収量で98~99%となり、ほぼ推奨品種並の成績であった。

4. 普及上の留意点

- 1) 一代雑種であるので自家採種はできない。
- 2) 適正栽植本数を厳守し栽培する。
- 3) 中晩生の品種であるので、高冷地では黄熟期に達しない。各地域の無霜期間の有効積算温度に合わせて使用する。

5. 参考資料

- 1) 昭和59~62年岩手県畜産試験場成績概要書
- 2) 昭和55年度普及奨励事項および指導上の参考事項
- 3) 昭和61年度普及奨励事項
- 4) 昭和62年度普及奨励事項および指導上の参考事項

6. 試験成績

